
とある一方の反対通行（リバースアクセル）

おおわさび

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

リバーズアークセル
とある一方の反対通行

【Nコード】

N7585S

【作者名】

おおわさび

【あらすじ】

インデックスのかわりに一方通行（女）を。
そんな思いつきで書いた作品です。
読んでくださると嬉しいです！

第一話 突然の出会い（前書き）

おもいつきで書いた。
反省は常に行っている。

第一話 突然の出会い

夏休み初日の朝。

これから夏休みだーという開放的な最高の気分で過ごすのが通りののだが。

最高に不幸な自分　上条当麻がそんな気分になれるはずもなかった。

「あぢーっ」

目を覚ますと、夏特有の強い日差しと蒸し暑さが同時に襲いかかってきた。

「ゲツ。エアコン壊れてら」

いつもは元気いっぱいに稼働して、この蒸し暑さを解消してくれるエアコンさんは沈黙していた。

「昨日のビリビリ女の雷のせいかな？」

とそこまで思い至り、俺はすぐのような気持ちで冷蔵庫の中を見たが、

「全滅か……」

一切想像を裏切らない惨状が展開されていた。

「うわっ、水モレが！！　制服がッ、借りてたマンガがあ」

そして床には冷蔵庫からの水漏れによりぐちゃぐちゃになっていた。

（分かってた　分かってましたよ！！　夏休みになったからって空から幸福しあわせが降ってくる訳じゃないいてさー！！！！）

腐臭が蔓延する中、俺は夏休みの初日から、自分の不幸っぷりを再確認することになった。

だけど俺には落ち込んでいる暇などない、なぜならこれから補習があるのだから。

ベチャリとする制服に我慢しながら袖を通してると、ベランダに何か白いのがひかかっているのが見えた。

（ん？ 布団。いつの間に干したんだ？）

不思議に思い、それをよく見てみると、

(!!?) ちがう。じゃあれは)

白い物体はセーラー服を着た白い髪の毛、白い肌をした小柄で華奢な女の子だった。

(なんだこりゃあ!？ どうしてウチのブランドにこんなモノが干
してあるんだあーーーー!!?)

すると俺に気付いたのか、セーラー服の女の子は目を開け、赤色の瞳を向けてきた。

「えー。あー」

どうすればいいんだと焦っている、

「あー」

セーラー服の女の子はゆっくりと口を開き、

「オマエ、コーヒーくれエ」

と脅すような声色で言ってきた。

そんな突拍子もないイベントが、俺の夏休みのはじまりだったんだ

第一話 突然の出会い（後書き）

ご感想、ご指摘、ご評価、ご質問あつたら気楽にしてください
来たら作者のやる気はレベル3に！！

第二話 少女の名は一方通行

「コーヒーくれエ」

とりあえず俺はセーラー少女を家の中に上げた。

「コーヒーくれエコーヒーくれエコーヒーくれエ。 って何回リピートさせる気だァ!! 速急にコーヒー出せと言ってるだろォがァ!!」

（え…？ 何ですかこの状況）

俺は膝を抱えて痛くなりそうな頭で、今の状況を考える。

（朝起きたらベランダにアルビノセーラー服少女が干されていて、しかもなぜかブチ切れているって、さすがにありえないだろー！！！？）

「オイ、オマエ聞いてンのかよォ!!」

「………すいません」

セーラー少女の脅しが正直怖いのでとりあえず、ご所望の品を出すことにした。

「今出すから、ちょい待ってください」

恐怖からつい敬語になりながら、俺は冷蔵庫だった物体の中をあさくった。

（たしか前に缶コーヒーを買っておいたはず よしあったあった）
目的の品を見つけると、俺はそれをセーラー少女に恐る恐る手渡した。

「あんがとな」

セーラー少女は律義に礼を言いながら受け取った。

（あんがが良い娘なのかな？）

と思っていたが、

「うわァ！ なんだよこれエ？ 甘めエ、ブラックじゃねエし。しかもぬるいって、どういことですかァ?!」

上条当麻は二秒で前言を撤回した。

「……大切な冷蔵庫さんがお亡くなりになられたんですよ。それであなたは何者なんですか？」

俺はセーラー少女がコーヒーを飲み終わるのを見計らって話しかけた。

「おいおい、相手に名前を聞くンだったら、先に自分の名前を言うのが会話の基本だろオガア」

怒られてしまった。

（なぜに上条さんは怒られているのでしょうか？それに、ベランダにひかかっていた女の子との会話は、超応用の分類に入と思うのだが……？）

そう思いながらも、素直に名乗ることにした。

「俺の名前は上条当麻、ただの不幸な高校生ですよ」

「上条当麻ねエ、一応覚えといてやるよ」

「お前は何様だよ！」

「あアン？」

「すいませんでした」

俺のヒエラルキーが決定した。

「まあいい、名乗られたらア名乗り返すもんだ。耳の穴かっぽじつてよく聞けエ」

（お前が名乗らせたんだろとは突っ込まないですよ、上条さんは二の轍は踏みませんのことよ」

しかしセーラー少女の正体は、そんな俺の考えを吹き飛ばす驚愕なものだった。

「オレは学園都市『第一位』の能力者、一方通行だア！！」
アクセラレータ

第二話 少女の名は一方通行（後書き）

一方通行さんの口調が難しい！

間違っているとところがあつたら教えてください……

ご感想、ご指摘、ご質問、ご評価いたたげたら

作者のやる気がレベル3に！！

よろしくおねがいします！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7585s/>

とある一方の反対通行（リバースアクセル）

2011年10月7日15時17分発行